

## 別紙(様式1)

2024.4

科目名	和裁 I (前期)						
対象学科	師範科	時間数 回数	732時間 439回	学年学期	1	必修・選択	必修
担当教員名	秋山杏子		実務経験の有無	有	授業形態	実習	
授業内容	運針練習、肌襦袢作成、浴衣の仕立てを学習等						
到達目標	着物を仕立てる前工程の理解と運針の重要性を実習を通して学習し、理解する。浴衣の縫い方を理解し、一人で完成することができるようにする。						
授業計画 (内容)	針の持ち方から指導し、運針練習をしていく。また、着付けに使用する紐や補正着、肌襦袢の作成をし、基本の縫い方の練習をしていく。浴衣の縫製に必要な部分縫いの練習をし、実際に仕立てていく。各工程をしっかりと確認しながら進み、反復練習をして目標到達を目指す。						
成績評価方法	学期末までに日々の課題の状況、平素の授業態度等を合わせ、50点以上を合格とする						
備考							

## 別紙(様式1)

2024.4

科目名	和裁 I (後期)						
対象学科	師範科	時間数 回数	762時間 457回	学年学期	1	必修・選択	必修
担当教員名	秋山杏子		実務経験の有無	有	授業形態	実習	
授業内容	和裁 I (前期)の復習していくと同時に、男・女物・子供物の長襦袢、袷長襦袢等の仕立て方を学習。単衣着物、袷着物の素縫いなどの仕立て方を学習。						
到達目標	それぞれの縫い方を理解し、1人で完成することができるようにする						
授業計画 (内容)	長襦袢の仕立て方を学ぶ。各工程をしっかりと確認しながら進み、反復練習をして、目標到達を目指す。単衣着物、袷着物の素縫いに進むための部分縫い練習をし、仕立て方を学ぶ。						
成績評価方法	学期末までに日々の課題の状況、平素の授業態度等を合わせ、50点以上を合格とする						
備考							

## 別紙(様式1)

2024.4

科目名	着付(自装)						
対象学科	師範科	時間数 回数	43時間 26回	学年学期	1	必修・選択	必修
担当教員名	中村由美・池上衣紅		実務経験の有無	無	授業形態	実習	
授業目的	着物を着ることができるようになることはもちろん、着物を実際に着ることで仕立ての大切さが分かり、和裁の技術向上につながることを目的とします。						
到達目標	浴衣(帯形 文庫 貝の口)・織り・染の着物(太鼓結び・二重太鼓)を自分で着れることを目標とします。						
授業計画 (内容)	<p>着物を実際に着ることで仕立ての大切さが分かります。          本校の着付けは器具を使わずヒモだけを用いる本格的なもの。          といっても着物初心者に向けてヒモの結びかたから指導しますから、          楽しく学ぶことができ、着物を身近に感じられるようになります。          1年生は自装(自分の着付け)を学びます。手順を覚えたら、より美しく着られるよう練習しましょう。</p> <p>入学するまで着付けを習ったことのない学生がほとんどです。でも、特別な道具は使わずヒモだけで着付けするので、慣れてしまえばいつでもどこでも着られるように。          自分で着付けできると着物がぐっと身近になります。</p>						
成績評価方法	学期末までに日々の課題の状況、平素の授業態度等を合わせ、50点以上を合格とする						
備考							

## 別紙(様式1)

2024.4

科目名	茶道						
対象学科	師範科	時間数 回数	40時間 24回	学年学期	1	必修・選択	必修
担当教員名	佐藤宗裕		実務経験の有無		無	授業形態	実習
授業内容	割り稽古・盆略点前・薄茶平点前（裏千家）						
到達目標	上記の点前を割り稽古等を行うことで学び、1人でできるようにする						
授業計画 (内容)	<p>茶道は日本の伝統文化あり、総合文化です。国内はもとより海外にもその豊富で充実した内容が認められております。</p> <p>日本の美しい春夏秋冬の季節感をとらえ、自然の恵みに感謝し、情緒を育みながら一碗のお茶を通じて素晴らしい人間関係、女性としての大切な礼節、お互いの思いやりの心を学び自身の社会的教養を身につけてゆくことが出来る修養の場です。</p> <p>一碗のお茶を心をこめてお点するおもてなしの勉強、そのお茶を感謝して頂くお客様の勉強であり、「和・敬・清・寂」の心を基とし道・学・術を学んで参ります。一碗は楽しく、修道は厳しく豊かなお人づくりを理想としております。</p>						
成績評価方法	学期末までに日々の課題の状況、平素の授業態度等を合わせ、50点以上を合格とする						
備考							

## 別紙(様式1)

2024.4

科目名	服飾雑貨						
対象学科	師範科	時間数 回数	3時間 2回	学年学期	1	必修・選択	必修
担当教員名	秋山杏子		実務経験の有無		無	授業形態	実習
授業内容	着物に合う巾着や髪飾りなどの作成						
到達目標	それぞれの作成物の作り方を理解する						
授業計画 (内容)	自分で縫った着物を着て、そのスタイルに合う小物も自分で作る！自分の和装をトータルコーディネートすることを学びます。 髪飾りや巾着など、着物姿の周りにある服飾雑貨を作成します。						
成績評価方法	履修の有無を判定						
備考							

## 別紙(様式1)

2024.4

科目名	和裁補足講義						
対象学科	師範科	時間数 回数	11時間 7回	学年学期	1	必修・選択	必修
担当教員名	秋山杏子		実務経験の有無	無	授業形態	講義	
授業内容	和裁に用いられる繊維材料とその保管と手入れの知識を学ぶ 和服の歴史から、現在のマナーまでを学ぶ 浴衣・長襦袢の仕立てについて、和裁実習を補足する講義						
到達目標	和裁に用いられる繊維材料と、その保管・手入れについての知識を身につけること。和服の美しい装い方、マナーを理解する。和裁実習では確認できないことや注意点を講義を受けることで理解する						
授業計画 (内容)	【被服材料学・被服整理学】1)和服に用いられてきた繊維素材を学ぶ2)和服素材に要求される性能と素材との関わりを学ぶ3)繊維が糸そして布へと製織されていく過程を学ぶ4)生糸の精練過程や糸使いの違いによる絹織物の多様性や"染めのきもの"の工程、などを学ぶ5)和服の主要材である絹の性質をその他の繊維素材と比較しながら、それぞれの繊維の長所や短所を学ぶ6)繊維の性質を考慮した、洗濯、しみぬき、などの手入れや、保管の方法についても学ぶ 【和装マナー】日本人の衣服の起源から、原始社会、古代社会、封建社会、近代社会などの時代を経て今日の和服の様式が確立されるまでの服装史を、公家、武家、庶民の男女の服装の比較を行いながら書物、埴輪、壁画、肖像画などを資料としてたどり、時代背景が服装に与えた影響や和服に込められた伝統文化を学ぶ。さらに、現代の和装のTPOにかなった着装について、素材や色合わせ、きものと帯、小物や履き物、髪型などのトータルコーディネートと、和服の着用時に心がけたいマナーについての常識を学び、和服の美しい装い方についての知識を身につける。 また、和裁実習だけでは理解しにくい点、間違いやすい点等の注意点を講義を受けることで、それぞれの仕立てのことを深く理解する。						
成績評価方法	履修の有無を判定						
備考							

## 別紙(様式1)

2024.4

科目名	説話						
対象学科	師範科	時間数 回数	3時間 2回	学年学期	1	必修・選択	必修
担当教員名	藤原東演		実務経験の有無		無	授業形態	講義
授業内容	心の成長の手助け						
到達目標	自分や他人・物事について考え、自己成長に繋がるきっかけを見つける						
授業計画 (内容)	<p>和裁技術を深めるために、心を磨くことが大切です。それに、一回切りの人生でどうして自分を活かし切っていくか学習しなくてはなりません。</p> <p>技術を習得するにしても先生に指導を受け、基本の教えや技術を学び、同じ道を歩く友人たちと努力していくことによって身につきます。同じように、人生を心豊かに生きるには、やはり人生の先生、人生の教えを学習する友の三つを欠くことはできません。人生の先輩として、失敗や体験を通して、学生の皆さんの心の成長の手助けをしたいと思います。</p>						
成績評価方法	履修の有無を判定						
備考							

## 別紙(様式1)

2024.4

科目名	染色講義						
対象学科	師範科	時間数 回数	11時間 7回	学年学期	1	必修・選択	必修
担当教員名	稲葉昌代		実務経験の有無	無	授業形態	講義	
授業内容	日本の伝統的な染織とその方法を学びます						
到達目標	上記を講義を通し理解します						
授業計画 (内容)	<p>私たちが生活していく中で、“色”の持つ意味は非常に大きいものがあります。今日における我が国の色彩文化は各ジャンルにおいてその発展は目覚ましく、私達の生活を機能的にそして豊かなものにしていきます。</p> <p>無限に広がる“色”を自分のものとしてとらえ、それをどのように生かしていくか、すなわち色彩に対するセンスを伸ばし高めることは、これからの人生に彩りをそえるばかりでなく、自己表現として大きな意味を持つものと思われまます。この授業では“色”を科学的にとらえた基礎的な色彩学としての知識を学び、更には、それぞれのもつ色の特徴をつかみ、“色”に対する意識と感覚を高めることを目的としています。</p>						
成績評価方法	履修の有無を判定						
備考							

## 別紙(様式1)

2024.4

科目名	染色実習						
対象学科	師範科	時間数 回数	33時間 20回	学年学期	1	必修・選択	選択
担当教員名	桜井理恵子		実務経験の有無	無	授業形態	実習	
授業内容	藍染の仕込みから、実際に染める作品制作までを行う						
到達目標	染めを実際に行いながら学ぶことで創作するやりがいや喜び理解する						
授業計画 (内容)	仕込みから、作品制作まで行なう藍染めの講座です。 専門的な藍染めを、講義を交えながら、糊作りから仕上げまでの実習となります。 染めを体験することは創作する喜びが得られるばかりでなく、きものや帯を染めている職人さんの技・心を知ることが出来ます。						
成績評価方法	履修の有無を判定						
備考							

## 別紙(様式1)

2024.4

科目名	和裁Ⅱ(前期)						
対象学科	師範科	時間数 回数	760時間 456回	学年学期	2	必修・選択	必修
担当教員名	秋山杏子、秋山美宙		実務経験の有無	有	授業形態	実習	
授業内容	和裁Ⅰの復習をし、技術向上をはかる。単衣着物の仕立てを覚える。						
到達目標	縫い方を理解し、1人で制限時間内に完成することができる						
授業計画 (内容)	8月までに浴衣の試験を数回行い、仕上がりの向上と時間短縮を目指す。長襦袢は仕上がりが向上と時間短縮を目指し、応用を学ぶ。単衣着物を覚え、生地 の性質を理解し、完成度を上げる。						
成績評価方法	学期末までに日々の課題の状況、平素の授業態度等を合わせ、50点以上を合格とする						
備考							

## 別紙(様式1)

2024.4

科目名	和裁Ⅱ後期						
対象学科	師範科	時間数 回数	790時間 474回	学年学期	2	必修・選択	必修
担当教員名	秋山杏子・秋山美宙		実務経験の有無	有	授業形態	実習	
授業内容	和裁Ⅰと和裁Ⅱ前期の復習と発展、単衣着物、袷着物の素縫いとまとめを習得。						
到達目標	長襦袢、浴衣の仕立ては完成度の向上、時間短縮を。子供物、二部式等少し違う形のもの仕立てはその習得を目指す。単衣、袷着物の素縫いでは生地 の性質に注意しながら安定した仕上がりを目指す。素縫いの完成度、目標時間をクリアしたらまとめ工程に入り、袷着物を1人で完成できるようにする。						
授業計画 (内容)	長襦袢、単衣着物、袷着物素縫い、まとめ、各工程で目標を設定し、達成を目指す。						
成績評価方法	学期末までに日々の課題の状況、平素の授業態度等を合わせ、50点以上を合格とする						
実務経験の内容	和裁企業の所属し、和裁の職人として仕事をしてきたことを生かし、自らの経験から、学生が早く正確に着物を美しく縫い上げることを指導していきます。						
備考							

## 別紙(様式1)

2024.4

科目名	着付(他装)						
対象学科	師範科	時間数 回数	33時間 20回	学年学期	2	必修・選択	必修
担当教員名	中村由美・池上衣紅		実務経験の有無	無	授業形態	実習	
授業目的	着物を着ることができるようになることはもちろん、着物を実際に着ることで仕立ての大切さが分かり、和裁の技術向上につながることを目的とします。						
到達目標	染の着物(太鼓結び・二重太鼓・文庫・ふくら雀)を人に着せれることを目標とします。						
授業計画 (内容)	<p>着物を実際に着ることで仕立ての大切さが分かります。          本校の着付けは器具を使わずヒモだけを用いる本格的なもの。          といっても着物初心者に向けてヒモの結びかたから指導しますから、          楽しく学ぶことができ、着物を身近に感じられるようになります。          2年生では他装(人への着付け)を学びます。手順を覚えたら、より美しく着られるよう練習しましょう。</p> <p>入学するまで着付けを習ったことのない学生がほとんどです。でも、特別な道具は使わずヒモだけで着付けするので、慣れてしまえばいつでもどこでも着られるように。自分で着付けできると着物がぐっと身近になります。</p>						
成績評価方法	学期末までに日々の課題の状況、平素の授業態度等を合わせ、50点以上を合格とする						
備考							

## 別紙(様式1)

2024.4

科目名	茶道						
対象学科	師範科	時間数 回数	13時間 8回	学年学期	2	必修・選択	必修
担当教員名	佐藤宗裕		実務経験の有無	無	授業形態	実習	
授業内容	薄茶平点前・講義・茶会（裏千家）						
到達目標	上記の点前を1人で行い、学内の茶会で披露する						
授業計画 (内容)	<p>茶道は日本の伝統文化あり、総合文化です。国内はもとより海外にもその豊富で充実した内容が認められております。</p> <p>日本の美しい春夏秋冬の季節感をとらえ、自然の恵みに感謝し、情緒を育みながら一碗のお茶を通じて素晴らしい人間関係、女性としての大切な礼節、お互いの思いやりの心を学び自身の社会的教養を身につけてゆくことが出来る修養の場です。</p> <p>一碗のお茶を心をこめてお点するおもてなしの勉強、そのお茶を感謝して頂くお客様の勉強であり、「和・敬・清・寂」の心を基とし道・学・術を学んで参ります。一碗は楽しく、修道は厳しく豊かなお人づくりを理想としております。</p>						
成績評価方法	学期末までに日々の課題の状況、平素の授業態度等を合わせ、50点以上を合格とする						
備考							

## 別紙(様式1)

2024.4

科目名	和裁補足講義						
対象学科	師範科	時間数 回数	6時間 4回	学年学期	2	必修・選択	必修
担当教員名	秋山杏子・秋山美宙		実務経験の有無	無	授業形態	講義	
授業内容	着物・子供物等仕立てについて、実習を補足する講義						
到達目標	実習では確認できないことや注意点を講義を受けることで理解する						
授業計画 (内容)	実習だけでは理解しにくい点、間違いやすい点等の注意点を講義を受けることで、それぞれの仕立てのことを深く理解する						
成績評価方法	履修の有無を判定						
備考							

## 別紙(様式1)

2024.4

科目名	説話						
対象学科	師範科	時間数 回数	3時間 2回	学年学期	2	必修・選択	必修
担当教員名	藤原東演		実務経験の有無		無	授業形態	講義
授業内容	心の成長の手助け						
到達目標	自分や他人・物事について考え、自己成長に繋がるきっかけを見つける						
授業計画 (内容)	和裁技術を深めるために、心を磨くことが大切です。それに、一回切りの人生でどうして自分を活かし切っていくか学習しなくてはなりません。 技術を習得するにしても先生に指導を受け、基本の教えや技術を学び、同じ道を歩く友人たちと努力していくことによって身につきます。同じように、人生を心豊かに生きるには、やはり人生の先生、人生の教えを学習する友の三つを欠くことはできません。人生の先輩として、失敗や体験を通して、学生の皆さんの心の成長の手助けをしたいと思います。						
成績評価方法	履修の有無を判定						
備考							

## 別紙(様式1)

2024.4

科目名	染色実習						
対象学科	師範科	時間数 回数	33時間 20回	学年学期	2	必修・選択	選択
担当教員名	桜井理恵子		実務経験の有無	無	授業形態	実習	
授業内容	藍染の仕込みから、実際に染める作品制作までを行う						
到達目標	染めを実際に行いながら学ぶことで創作するやりがいや喜び理解する						
授業計画 (内容)	仕込みから、作品制作まで行なう藍染めの講座です。 専門的な藍染めを、講義を交えながら、糊作りから仕上げまでの実習となります。 染めを体験することは創作する喜びが得られるばかりでなく、きものや帯を染めている職人さんの技・心を知ることが出来ます。						
成績評価方法	履修の有無を判定						
備考							

## 別紙(様式1)

2024.4

科目名	和裁Ⅲ(前期)						
対象学科	師範科	時間数 回数	775時間 465回	学年学期	3	必修・選択	必修
担当教員名	北原和奈・秋山美宙		実務経験の有無	有	授業形態	実習	
授業内容	和裁Ⅱの技術向上をはかり、復習していく。単衣羽織、袷羽織の仕立て方を覚える。						
到達目標	縫い方を理解し、1人で制限時間内に美しく完成することができる						
授業計画 (内容)	和裁Ⅱで行った浴衣や長襦袢、単衣着物、袷着物の仕立ての更なる技術向上をはかり、時間を意識し、反復練習をして、美しく仕立て、目標到達を目指す。単衣羽織、袷羽織の仕立てを覚え、目標到達を目指す。						
成績評価方法	学期末までに日々の課題の状況、平素の授業態度等を合わせ、50点以上を合格とする						
備考							

## 別紙(様式1)

2024.4

科目名	和裁Ⅲ(後期)						
対象学科	師範科	時間数 回数	808時間 485回	学年学期	3	必修・選択	必修
担当教員名	北原和奈・秋山美宙		実務経験の有無	有	授業形態	実習	
授業内容	付下、訪問着、振袖、留袖等の絵羽物の仕立ての実習、祝着揚げの実習、和裁Ⅲの復習をしていく。羽織の仕立て方を覚える。						
到達目標	縫い方を理解し、1人で完成することができる						
授業計画 (内容)	付下、訪問着、振袖、留袖等の絵羽物の仕立ての実習、祝着揚げの実習をしていくことで、まずは仕立て方を覚え、目標到達を目指す。羽織の仕立ての知識を身に付け、仕立て方を覚えていく。仕上がりの完成度を上げ、時間短縮をしていく。						
成績評価方法	学期末までに日々の課題の状況、平素の授業態度等を合わせ、50点以上を合格とする						
備考							

## 別紙(様式1)

2024.4

科目名	和裁補足講義						
対象学科	師範科	時間数 回数	3時間 2回	学年学期	3	必修・選択	必修
担当教員名	北原和奈		実務経験の有無	無	授業形態	講義	
授業内容	着物や羽織の仕立てについて、実習を補足する講義						
到達目標	実習では確認できないことや注意点を講義を受けることで理解する						
授業計画 (内容)	実習だけでは理解しにくい点、間違いやすい点等の注意点を講義を受けることで、それぞれの仕立てのことを深く理解する						
成績評価方法	履修の有無を判定						
備考							

## 別紙(様式1)

2024.4

科目名	説話						
対象学科	師範科	時間数 回数	3時間 2回	学年学期	3	必修・選択	必修
担当教員名	藤原東演		実務経験の有無	無	授業形態	講義	
授業内容	心の成長の手助け						
到達目標	自分や他人・物事について考え、自己成長に繋がるきっかけを見つける						
授業計画 (内容)	<p>和裁技術を深めるために、心を磨くことが大切です。それに、一回切りの人生でどうして自分を活かし切っていくか学習しなくてはなりません。</p> <p>技術を習得するにしても先生に指導を受け、基本の教えや技術を学び、同じ道を歩く友人たちと努力していくことによって身につきます。同じように、人生を心豊かに生きるには、やはり人生の先生、人生の教えを学習する友の三つを欠くことはできません。人生の先輩として、失敗や体験を通して、学生の皆さんの心の成長の手助けをしたいと思います。</p>						
成績評価方法	履修の有無を判定						
備考							

## 別紙(様式1)

2024.4

科目名	染織生地						
対象学科	師範科	時間数 回数	16時間 10回	学年学期	3	必修・選択	必修
担当教員名	高橋沙枝美		実務経験の有無		無	授業形態	講義
授業内容	着物のさまざまな素材を学びます。染め、織りの手法や特色等を学び、和裁実習にも生かしていきます。						
到達目標	上記を講義を通し理解します						
授業計画 (内容)	和服を構成する生地の素材は数えきれないくらいあります。今日の着物文化は素材のバリエーションにより華やかになっています。 この授業では染め、織りの基礎的な知識を学び、更には、それぞれのもつ特徴をつかみ、素材に対する意識を高めることを目的としています。						
成績評価方法	履修の有無を判定						
備考							

## 別紙(様式1)

2024.4

科目名	染色実習						
対象学科	師範科	時間数 回数	33時間 20回	学年学期	3	必修・選択	選択
担当教員名	桜井理恵子		実務経験の有無	無	授業形態	実習	
授業内容	藍染の仕込みから、実際に染める作品制作までを行う						
到達目標	染めを実際に行いながら学ぶことで創作するやりがいや喜び理解する						
授業計画 (内容)	仕込みから、作品制作まで行なう藍染めの講座です。 専門的な藍染めを、講義を交えながら、糊作りから仕上げまでの実習となります。 染めを体験することは創作する喜びが得られるばかりでなく、きものや帯を染めている職人さんの技・心を知ることが出来ます。						
成績評価方法	履修の有無を判定						
備考							

## 別紙(様式1)

2024.4

科目名	和裁Ⅳ(前期)						
対象学科	師範科	時間数 回数	645時間 387回	学年学期	4	必修・選択	必修
担当教員名	大瀧光美、三内美咲、濱脇彩乃		実務経験の有無	有	授業形態	実習	
授業内容	和裁Ⅲの技術向上をはかり、復習していく。コートの仕立て方を覚える。						
到達目標	縫い方を理解し、1人で制限時間内に美しく完成することができる						
授業計画 (内容)	和裁Ⅲで行った浴衣から絵羽物までの仕立ての更なる技術向上をはかり、時間を意識し、反復練習をして、美しく仕立て、目標到達を目指す。道中着、着物衿コートの仕立てを覚える。						
成績評価方法	学期末までに日々の課題の状況、平素の授業態度等を合わせ、50点以上を合格とする						
備考							

## 別紙(様式1)

2024.4

科目名	和裁Ⅳ(後期)						
対象学科	師範科	時間数 回数	646時間 388回	学年学期	4	必修・選択	必修
担当教員名	大濱光美・三内美咲・濱脇彩乃		実務経験の有無	有	授業形態	実習	
授業内容	今まで習った着物の仕立てについて、その技術を今後職業として通用するレベルまで引き上げるための実習を重ねていく。また後半は、道行コートや変わり衿コート等も学び、その縫い方を覚え、1人で完成できるようにしていく。						
到達目標	着物を1人で仕上げられ、扱いの難しい生地にも対応し、職業として通用する常に安定した技術習得を目指し、さらに着物用のコートも1人で仕上げられるようにしていく。						
授業計画 (内容)	袷着物等を中心に、縫う正確さや速さをさらに磨くための実習を重ねていく。また、道行コートや変わり衿コートの理解度の向上をはかっていく。 袷着物の仕立てに関し、職業として成り立つ正確さ、速さへの到達を目指すことと、道行コートや変わり衿コートの縫製について他とは違う点を確認しながら、実習をしていく。着用者にとって、より良い寸法の取り方、難しい生地の扱い等、自分で判断できるよう意識して実習をしていく。						
成績評価方法	学期末までに日々の課題の状況、平素の授業態度等を合わせ、50点以上を合格とする						
実務経験の内容	和裁企業の所属し、和裁の職人として仕事をしていたことを生かし、自らの経験から、学生が早く正確に着物を美しく縫い上げることを指導していきます。						
備考							

## 別紙(様式1)

2024.4

科目名	裁断実習						
対象学科	師範科	時間数 回数	366時間 220回	学年学期	4	必修・選択	必修
担当教員名	片桐由希菜・木股忍・三内美咲		実務経験の有無	有	授業形態	実習	
授業内容	浴衣、長襦袢、単衣着物の裁断の復習。袷着物の柄合わせの仕方、羽織、コートの裁断及びへら付けを学ぶ。						
到達目標	基本の裁ち方をしっかり身に付け、さらに柄出しや寸法の取り方等、自分で考え判断できるようにする。指示通りできない場合等の対処法等も学び、自分で解決できる力を身に付ける。着物類が覚えられたら、羽織、コートの裁断も覚えていく。						
授業計画 (内容)	【4月～8月】浴衣、長襦袢、単衣着物を数多く裁断し、基本動作を身に付けるとともに、柄出しや特別な指示に対応できるように実習を重ねていく。 【9月～12月】袷着物を中心に裁ち方の習得をし、基本的な柄合わせの仕方等を学ぶ。工程が多い分、時間内に効率よく作業できるよう実習を重ねていく。羽織、コートの裁断も学んでいく。 【1月～3月】袷着物、羽織、コートの裁断の理解度の更なる向上と、裁断の正確さ、スピードを意識し、実習をしていく。						
成績評価方法	学期末までに日々の課題の状況、平素の授業態度等を合わせ、50点以上を合格とする						
実務経験の内容	和裁企業の所属し、和裁の職人として仕事をしてきたことを生かし、自らの経験から、学生が早く正確に着物を美しく縫い上げるために効率よく反物を裁断していくことを指導						
備考							

## 別紙(様式1)

2024.4

科目名	和裁補足講義						
対象学科	師範科	時間数 回数	3時間 2回	学年学期	4	必修・選択	必修
担当教員名	濱脇彩乃		実務経験の有無	無	授業形態	講義	
授業内容	着物・羽織・コートの仕立てについて、実習を補足する講義						
到達目標	実習では確認できないことや注意点を講義を受けることで理解する						
授業計画 (内容)	実習だけでは理解しにくい点、間違いやすい点等の注意点を講義を受けることで、それぞれの仕立てのことを深く理解する						
成績評価方法	履修の有無を判定						
備考							

2024.4

科目名	説話						
対象学科	師範科	時間数 回数	3時間 2回	学年学期	4	必修・選択	必修
担当教員名	藤原東演		実務経験の有無	無	授業形態	講義	
授業内容	心の成長の手助け						
到達目標	自分や他人・物事について考え、自己成長に繋がるきっかけを見つける						
授業計画 (内容)	<p>和裁技術を深めるために、心を磨くことが大切です。それに、一回切りの人生でどうして自分を活かし切っていくか学習しなくてはなりません。</p> <p>技術を習得するにしても先生に指導を受け、基本の教えや技術を学び、同じ道を歩く友人たちと努力していくことによって身につきます。同じように、人生を心豊かに生きるには、やはり人生の先生、人生の教えを学習する友の三つを欠くことはできません。人生の先輩として、失敗や体験を通して、学生の皆さんの心の成長の手助けをしたいと思います。</p>						
成績評価方法	履修の有無を判定						
備考							

## 別紙(様式1)

2024.4

科目名	染色実習						
対象学科	師範科	時間数 回数	33時間 20回	学年学期	4	必修・選択	選択
担当教員名	桜井理恵子		実務経験の有無	無	授業形態	実習	
授業内容	藍染の仕込みから、実際に染める作品制作までを行う						
到達目標	染めを実際に行いながら学ぶことで創作するやりがいや喜び理解する						
授業計画 (内容)	仕込みから、作品制作まで行なう藍染めの講座です。 専門的な藍染めを、講義を交えながら、糊作りから仕上げまでの実習となります。 染めを体験することは創作する喜びが得られるばかりでなく、きものや帯を染めている職人さんの技・心を知ることが出来ます。						
成績評価方法	履修の有無を判定						
備考							